

令和6年度厚木市議会友好都市交流訪問団（糸満市） 報告書
【概要版】

1 訪問期間 令和7年1月24日（金）～25日（土）

2 訪問先 沖縄県糸満市

3 訪問団 7人

[団 長]（副議長）	高橋	知己
[団 員]（議 員）	名切	文梨
	山崎	由枝
	望月	真実
	奈良	直史
	津森	英里花
[事務局]（課 長）	矢部	浩之

4 目的

平成30年8月4日に友好都市を締結した糸満市に、厚木市議会を代表し訪問し、議会間交流をはじめとする友好親善を図る。

5 訪問日程

1月24日（金）（1日目）

7時00分 厚木市役所 出発
10時30分 羽田空港（発） JAL913便
13時30分 那覇空港（着）
14時20分 昼食
15時10分 糸満市議会議長表敬訪問
15時45分 シャボン玉石けんくくる糸満
16時25分 ひめゆり平和祈念資料館（ひめゆりの塔）
17時20分 サザンビーチホテル&リゾート沖縄 到着
18時30分 厚木市・糸満市・都農町交流会

1月25日（土）（2日目）

9時45分 ホテル出発
9時50分 糸満海人工房資料館
10時30分 糸満フェア会場、開会式、観覧
11時30分 昼食
13時00分 糸満市スポーツ観光交流拠点施設見学
15時10分 那覇空港（発） JAL988便
17時20分 羽田空港（着）
19時00分 厚木市役所 到着

6 糸満市の概要

昭和 36 年 10 月 1 日に合併により糸満町誕生し、昭和 46 年 12 月 1 日に市制施行がされた。沖縄本島の最南端にあり、那覇市から南へ 12 km のところに位置する。

亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温は 22℃～23℃。夏季は 30℃を超える日も多く、加えて湿度も 80% 以上になるため、熱帯並みの蒸し暑い日が続く。降水量は年間 2,000mm 前後と多いが、年によっては降水量が少なく干ばつに悩まされることがある。

人口は、62,234 人、世帯数 28,772 世帯（令和 6 年 12 月末現在）、面積 46.63 ㎢である。

かつて、沿岸地区の住民は、「サバニ」と呼ばれるくり舟に乗り南洋各地へ出漁した漁民で知られ、男性は追込漁、女性は魚行商に従事していた。漁業以外にも、内陸部では畑作を中心とした農業、畜産も盛んである。

那覇市に近く、近年は人口が増加し、都市化が著しい。戦後出漁海域が沖縄周辺に限られたが、昭和 57 年には大型船用の「糸満漁港」が完成し、水産加工工場を立地するなど商工業の一中心として発展している。

伝統工芸に、ガラス工芸（琉球ガラス）や漆器がある。

旧暦 5 月 4 日（新暦だと 5 月下旬から 6 月上旬に相当）に開催される糸満ハーレー（船競漕の海神祭で、市内ではほかに喜屋武地区、名城地区でも行われる。他の地域では「ハーリー」という）、旧暦 8 月 15 日（現在の新暦だと 9 月中旬頃に相当）の大綱引きは、五穀豊穰・無病息災を願う行事である。

市南部の旧三和村一帯は、沖縄戦最大の激戦地で、ひめゆりの塔や健児の塔などが建立されており、その周辺は沖縄戦跡国定公園に指定されている。

7 視察等概要

1 月 2 4 日（金）第 1 日目

（1）市議会への表敬訪問

糸満市役所を訪問し、糸満市議会の金^{きんじょう}城^{あらかき}議長、新垣副議長にお迎えをいただいた。

金城議長からは、訪問に対するお礼とともに、糸満市の、文化に触れることにより両市の交流がより深まる機会となることを期待したいとの話や、糸満市の歴史や文化、今回見学する施設などについてご説明をいただいた。

また、高橋団長からは、2 月 1 日に開催する本市の市政施行 70 周年記念式典の際には、来厚していただくことをお願いした。

（2）シャボン玉石けん くくる糸満視察

糸満市は海をはじめグスクや戦跡など沖縄をイメージさせる風景の集約された地域であり、市内各地域には長い歴史、豊かな文化を物語る名所旧跡、伝統行事や芸能など、有形・無形の文化資源がある。

「くくる」とは、沖縄方言で「心」という意味で、糸満市観光文化交流拠

点施設である「くくる糸満」は、こうした魅力を情報として発信し、さまざまな体験や交流を図る場として、観光客の誘客や地域文化の発展を目的とする施設である。展示構成としては、「糸満の海」、「糸満のなりたち」、「糸満のグスク」、「農業・漁業の暮らし」、「沖縄戦終焉の地」、「今も息づく伝統文化」に関する展示とシアター展示室「サバニシアター」がある。

各コーナーとも、精巧な模型や地図などの展示やタッチパネル方式のクイズが設けられており、糸満市の伝統文化や歴史、観光資源などの魅力を知ることができる施設となっている。また、「サバニシアター」では、実物大のサバニを展示したホールではパノラマシアターで没入感のある映像を楽しむことができる。

施設内には他に大ホール、講演会等が開催できる多目的ホール、企画展示室、交流ロビーなどがある。

平和を願う心、文化を大切にする願いが感じ取れる施設であった。

(3) ひめゆり平和祈念資料館（ひめゆりの塔）視察

ひめゆり平和祈念資料館は、1989年6月23日、ひめゆり同窓会によって設立された。映像や当時の写真、豪の実物大模型などを通して、ひめゆり学徒隊が体験した沖縄戦の実相を伝えている。

ひめゆりの塔は、沖縄戦末期に沖縄陸軍病院第三外科が置かれた壕の跡に立つ慰霊碑。慰霊碑の名称は、当時第三外科壕に学徒隊として従軍していたひめゆり学徒隊にちなんでいる。

ひめゆり学徒の戦争体験を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを見つめ直すことができた。

(4) 交流会への参加

糸満市主催の歓迎会に出席。糸満市からは當銘市長、金城議長をはじめ、市、市議会、商工会、観光協会関係者など29人、糸満市の姉妹都市である宮崎県都農町からは坂田町長、都農町議会の三輪議長、商工会、観光協会関係者など23人、交流都市である山形県南陽市からは商工会関係者3人、厚木市議会関係者7人の計62人が出席。主催者の挨拶に続き、来賓挨拶や催し物の披露が行われた。糸満市のほか、都農町、南陽市の関係者と、意見交換等を行い、友好親善を図ることができた。

1月25日（土）第2日目

(1) 糸満海人工房資料館視察

糸満海人が世界に先駆けて開発した漁具や民具、サバニ（伝統的な小型帆掛け漁船）など、ウミンチュ（海人＝漁師）ゆかりの道具類の展示や体験学習を行っている施設で、NPOハマスーキが運営している。

ミーカガンと呼ばれる水中メガネの原型を開発により、素掘りでの貝

や海藻の採取、追込網漁業が栄え、漁獲が飛躍的に高まったことなど、糸満漁業の歴史を知ることができた。

(2) 糸満フェア視察

糸満市の産業まつりである「糸満フェア」を視察した。ステージイベントも開催され、市内の保育園児によるダンスなどを見学した。

糸満フェアには、多くの企業が出展しており、宮崎県都農町もブースを開設していた。天気は曇り（途中一時的に降雨あり）であったが、抽選会もあり、観光客や家族連れの方々に会場は大変な賑わいであった。

なお、隣接する「道の駅いとまん」は、全国の道の駅ランキングで上位にランクインするほどの規模で沖縄県最大級の農産物販売所や漁協の直営店が並んおり賑わいを見せていた。

(3) 糸満市スポーツ観光交流拠点施設見学

陸上競技場や野球場を有する西崎運動公園内に、新たに屋内運動場を整備するもので、千葉ロッテマリーンズから、屋内運動場があれば糸満市内で春季2次キャンプを行いたいとの話があったことをきっかけとして検討を進めてきた。令和7年2月18日にプレオープンの予定で、一般貸出は令和4月からの予定。

建物は、幕屋根、縦45m×横45mの四角形でロングパイルタイプの人工芝が張られており、プロ野球のキャンプでも使用できるほか、7枚のネットを使って分けることにより、複数の競技を同時に行うことができる。野球、フットサル、グランドゴルフ、ゲートボール、保育所の運動会など様々な競技種目で使用できる施設となっている。事業期間はR3～R5年度。計画や設計を含んだ総事業費は17.1億円（うち国費は13.7億円）、

8 まとめ

今回の訪問は、交流会による意見交換や糸満フェアの会場で糸満市、都農町（糸満市の友好都市）と親しく交流の場がもてました。

特に、交流会の場では、糸満市議会の金城議長、新垣副議長などから盛大な歓迎を受けました。

糸満フェアの会場では、観光客や家族連れの方々が楽しみながら大変に賑わっていて、糸満らしさが工夫されているフェアと感じました。

また、2日間の日程の中で、市内施設の視察を行ったことにより糸満市の歴史、伝統や文化に触れることができました。

これから、お互いの市が共に発展し、市民が交流できる末永い友情を育めるようさらに努力していくべきと感じました。